

平成27年度 事務事業マネジメントシート

事業名	つばさ学園改修事業				会計	款	項目	大事	小事	
					01	03	02	07	02	59
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）			主管課	児童発達支援センター				
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり			主管課長	長谷川 聖二				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	概ね2歳から18歳未満で、成長や発達に心配がある児童及びその保護者。 (通園児は3歳から6歳児)	意図	分散されている施設の集約化を図り、施設の機能の充実を図る。
事業内容	平成27年度から児童発達支援センターとして組織改編をしたことに伴い、分散されている施設の集約化を図るため、増改築工事を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	平成27年度から施設設計を行い、平成28年度で工期を3期に分けて、施設を休園せずに工事を行い、平成29年1月末の完成を目指します。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	事業進捗率			6.50	%
②							
③							
④							
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
事務事業のコスト	平成25年度	平成26年度	平成27年度	分散した施設を集約するため、施設の設計をプロポーザル方式で選定した業者に委託し、より機能的な施設の集約を図った。			
事務事業の総コスト(a=b+c)			17,133,653				
事業費(b)(円)			5,838,653				
うち一般財源			300,000				
職員給与費(c)(円)			11,295,000				
人役・職員(人)			1.50				
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H27)の改善計画	平成27年度から、つばさ学園が児童発達支援センターとして独立したことから、施設の充実化を図るため増改築工事を実施する。	③取組の課題	28年度から建設工事が始まるため、工事期間中事故等のないよう、安全配慮等に万全を期す。
②今年度(H27)に実施した取組	プロポーザル方式により設計業者を選定し、増改築工事の基本設計を行った。また、保護者、地域住民に対し工事にかかる説明会を開催した。	④今後の改善計画	工事区域をフェンスで囲い園児や利用者が侵入しない措置をするともに、警備員を配置し搬入車両等の安全運行に留意する。